

In vivo / in vitro 用 標的細胞特異的 RNAi 試薬デリバリーツール

NeuroAim™ / MyeloAim™ トランスダクション試薬

● NeuroAim™ トランスダクション試薬 血液脳関門を通過して RNAi 試薬をデリバリーします。

記事 ID 検索 **9755**

詳しい情報は、コスモ・バイオホームページのサイト内検索エンジン「記事 ID 検索」に、この商品のページ ID (上記のアイコンの数字) を入力してください。ダイレクトにページへ行くことができます。

NeuroAim™ トランスダクション試薬は血液脳関門を通過して、中枢神経システムに入り、脳へ RNAi 試薬をデリバリーします。マウスもしくはラットに静脈注入した後、NeuroAim™ トランスダクション試薬は神経細胞へ RNAi 試薬を運び、脳内で特異的な遺伝子サイレンシングが起ります。

この試薬は血液脳関門を通過して siRNA や治療分子のデリバリーに安全で非侵襲性アプローチを提供します。

特長

- 血液脳関門 (BBB) を通過して siRNA、miRNA、その他の RNAi 試薬を確実にデリバリーします。
- マウス、ラットプライマリー神経細胞 (ミクログリアやアストロサイトを含む)、細胞株です。
- In vivo / in vitro の両方に適応しています。
- 効果的で特異的な遺伝子ノックダウンが可能です。
- アルツハイマー病、パーキンソン氏病、多発性硬化症 (MLS)、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) などの神経疾患の研究に。
- 唯一の細胞特異的な販売試薬です。

構成内容

- NeuroAim™ In Vitro Transduction Reagent 0.4 mL or 1.0 mL
もしくは NeuroAim™ In Vivo Transduction Reagent for 20 rxn
- RNase-Free Sterile 1X PBS 5.0 mL

プロトコール (In vivo 用)

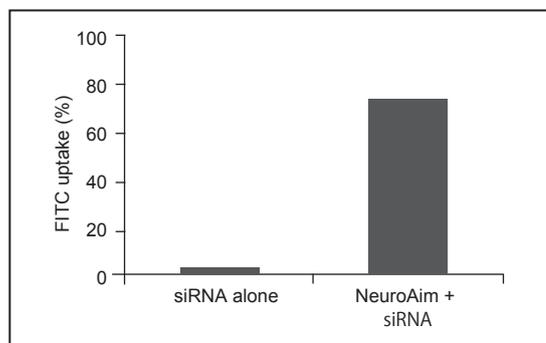
- ① RNA フリー滅菌 1xPBS で RNAi 試薬 5-10 mg/mL 濃度の範囲で溶解します。インジェクションに用いる RNAi 試薬の推奨量は 50-100 µg です。(多くの RNAi 試薬は 13,000 g/mole 程度です)。
- ② NeuroAim™ In Vivo トランスダクション試薬と RNAi 試薬の割合はゲルシフトアッセイで実験的に決定してください。
- ③ 混ぜたら室温で 20 分間インキュベートします。
- ④ 動物に結合複合体を静脈注射します。

静脈注射

- ① ヒートランプを使ってマウス尾を暖めます (およそ 10 分間)。
- ② マウスは拘束具もしくは手で固定します。
- ③ アルコール綿棒で尾を消毒し、静脈を見やすくするために少し回転させます。
- ④ 静脈を捉えたら、挿入部位を消毒し、少し角度をつけて挿入します。ゆっくり注入し (~20 µl/sec)、静脈の血管がクリアであるかを確認してください。もし尾に膨らみが現れたら針を取り除き、その前部で再び試してください。
- ⑤ 針を完全に取り除いたらインジェクション部位を押さえてください。

プロトコール (In vitro 用)

- ① 接着細胞を適切な生理条件下で 80% コンフルエントになるまで培養します。
- ② トランスダクションの一晩前に、接着細胞 (2x10⁵ cells/well in 48-well plate) をプレートし、インキュベートします (5% CO₂ インキュベーター、37°C)。
- ③ ウェルから培養培地を除去し、トランスダクションの 2 時間前に血清もしくは抗生物質 (1.0 mL/well) を除いた推奨培地を加えます。
- ④ 各トランスダクション用に NeuroAim™ In Vitro Transduction 試薬 20 µL を血清不含培地 100 µL に加えてトランスダクション試薬のワーキングストックを作ります。
(注意: RNase-free 遠心チューブとピペットチップを使用し、滅菌状態を維持してください。)
- ⑤ 各トランスダクション用に 100 mM ストック 2 µL を血清不含培地 100 µL に加えて siRNA のワーキングストックを作ります。
(注意: コンジュゲーションに使用する siRNA 量は実験毎に最適化してください。siRNA 量は 1 ウェルあたり 0.25 µM ~ 5.0 µM の範囲で調整します。)
(注意: RNase-free 遠心チューブとピペットチップを使用し、滅菌状態を維持してください。)
- ⑥ 総量 200 µL になるように、希釈済みトランスダクション試薬に希釈済み siRNA を加え、タッピングして混ぜます。
ピペットやボルテックスは使用しないでください。
(注意: 細胞とトランスダクション試薬のみ、細胞と siRNA のみをコントロールとして使います。)
- ⑦ 複合体を室温で 15-20 分間インキュベートします。
- ⑧ 培地を除去し、各ウェルに NeuroAim™-siRNA 複合体 200 µL を加えます。同時に各ウェルについても行います。
- ⑨ プレートにカバーし、インキュベートします。
(5%CO₂ インキュベーターで 37°C、16 ~ 24 時間)
- ⑩ 一晩インキュベートした後、やさしくバキュームで培地を除去します。
- ⑪ 各ウェルに完全培地 200 µL を加え、48 時間インキュベートします。
- ⑫ 培地を吸引除去して 1xPBS で 3 回ウェルを洗浄します。
ご希望のノックダウンのスクリーン方法で解析してください。



マウス神経細胞における NeuroAim™ in vivo トランスダクション試薬を用いた FITC 標識 siRNA の取り込み

BIOO SCIENTIFIC CORPORATION メーカー略号: BIO

品名	品番	包装	希望販売価格
NeuroAim™ In Vitro トランスダクション試薬	515201	0.4 mL	¥ 40,000
	515202	1 mL	¥ 83,000
NeuroAim™ In Vivo トランスダクション試薬	515203	20 rxn	¥ 165,000



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

● MyeloAim™ トランスダクション試薬 骨髄系細胞に RNAi 試薬をデリバリーします。

記事 ID 検索 9754

MyeloAim™ トランスダクション試薬はマウス、ラット、ヒトの単球、マクロファージ、樹状細胞を含んだ骨髄細胞系列の細胞に siRNA を形質導入する試薬です。静脈注射後に、MyeloAim™ トランスダクション試薬は骨髄細胞に siRNA を運び、効果的な遺伝子サイレンシングを起こします。この試薬は siRNA や潜在的な治療分子のデリバリーに安全で非侵襲性アプローチを提供します。

特長

- マウス、ラット、ヒト単球、マクロファージ、樹状細胞、細胞株を含んだ骨髄細胞系列の細胞（プライマリー細胞、細胞株）です。
- *In vivo* / *in vitro* の両方に適応しています。
- 効果的で特異的な遺伝子ノックダウンが可能です。
- HIV やマクロファージや樹状細胞に影響する疾患、腫瘍研究に。
- 樹状細胞の免疫応答研究に。
- 唯一の細胞特異的な販売試薬です。

構成内容

- MyeloAim™ *In Vitro* Transduction Reagent 0.4 mL or 1.0 mL
もしくは MyeloAim™ *In Vivo* Transduction Reagent for 20 rxn
- RNase-Free Sterile 1X PBS 5.0 mL

プロトコール (*In vivo* 用)

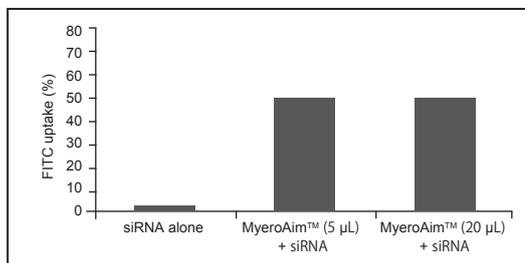
- ① RNA フリー滅菌 1xPBS で RNAi 試薬 5-10 mg/mL 濃度の範囲で溶解します。インジェクションに用いる RNAi 試薬の推奨量は 50-100 µg です。(多くの RNAi 試薬は 13,000 g/mole 程度です)。
- ② MyeloAim™ *In Vivo* トランスダクション試薬と RNAi 試薬の割合はゲルシフトアッセイで実験的に決定してください。
- ③ 混ぜたら室温で 20 分間インキュベートします。
- ④ 動物に結合複合体を静脈注射します。

静脈注射

- ① ヒートランプを使ってマウス尾を暖めます (およそ 10 分間)。
- ② マウスは拘束具もしくは手で固定します。
- ③ アルコール綿棒で尾を消毒し、静脈を見やすくするために少し回転させます。
- ④ 静脈を捉えたら、挿入部位を消毒し、少し角度をつけて挿入します。ゆっくり注入し (~20 µL/sec)、静脈の血管がクリアであるかを確認してください。もし尾に膨らみが現れたら針を取り除き、その前部で再び試してください。
- ⑤ 針を完全に取り除いたらインジェクション部位を押さえてください。

プロトコール (*In vitro* 用)

- ① 接着細胞 (RAW264.7: マウス白血性単球マクロファージ細胞株、単球由来マクロファージ (MDMs)、単球由来樹状細胞 (MDDCs)) を適切な生理条件下で 80% コンフルエントになるまで培養します。
- ② トランスダクションの一晩前に、接着細胞 (2x10⁵ cells/well in 48-well plate) をプレートし、インキュベートします (5% CO₂ インキュベーター、37°C)。
- ③ ウェルから培養培地を除去し、トランスダクションの 2 時間前に血清もしくは抗生物質 (1.0 mL/well) を除いた推奨培地を加えます。
- ④ 各トランスダクション用に MyeroAim™ *In Vitro* Transduction 試薬 20 µL を血清不含培地 100 µL に加えてトランスダクション試薬のワーキングストックを作ります。
(注意: RNase-free 遠心チューブとピペットチップを使用し、滅菌状態を維持してください。)
- ⑤ 各トランスダクション用に 100 mM ストック 20 µL を血清不含培地 100 µL に加えて siRNA のワーキングストックを作ります。
(注意: コンジュゲーションに使用する siRNA 量は実験毎に最適化してください。siRNA 量は 1 ウェルあたり 0.25 µM ~ 5.0 µM の範囲で調整します。)
(注意: RNase-free 遠心チューブとピペットチップを使用し、滅菌状態を維持してください。)
- ⑥ 総量 200 µL になるように、希釈済みトランスダクション試薬に希釈済み siRNA を加え、タッピングして混ぜます。ピペットやボルテックスは使用しないでください。
(注意: 細胞とトランスダクション試薬のみ、細胞と siRNA のみをコントロールとして使います。)
- ⑦ 複合体を室温で 15-20 分間インキュベートします。
- ⑧ 培地を除去し、各ウェルに MyeroAim™-siRNA 複合体 200 µL を加えます。同時に各ウェルについても行います。
- ⑨ プレートにカバーし、インキュベートします。
(5% CO₂ インキュベーターで 37°C、16 ~ 24 時間)
- ⑩ 一晩インキュベートした後、やさしくパキュウムで培地を除去します。
- ⑪ 各ウェルに完全培地 200 µL を加え、48 時間インキュベートします。
- ⑫ 培地を吸引除去して 1xPBS で 3 回ウェルを洗浄します。
ご希望のノックダウンのスクリーン方法で解析してください。



マウス RAW 細胞における MyeroAim™ *In Vivo* トランスダクション試薬を用いた FITC 標識 siRNA の取り込み

BIO SCIENTIFIC CORPORATION メーカー略号: BIO

品名	品番	包装	希望販売価格
MyeroAim™ <i>In Vitro</i> トランスダクション試薬	515301	0.4 mL	¥ 40,000
	515302	1 mL	¥ 83,000
MyeroAim™ <i>In Vivo</i> トランスダクション試薬	515303	20 rxn	¥ 165,000

お願い および 注意事項

- 希望販売価格 … 「希望販売価格」は参考であり、販売店様からの販売価格ではございません。
記載の希望販売価格は 2015 年 7 月 1 日現在の希望販売価格です。
予告なしに改定される場合がありますので、ご注文の際にご確認下さい。消費税は含まれておりません。
- 使用範囲 … 記載の商品は全て、「研究用試薬」です。
人や動物の医療用・臨床診断用・食品用等としては使用しないよう、十分ご注意ください。

(12328)

取扱店



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016 東京都江東区東陽 2-2-20 東陽駅前ビル
URL: <http://www.cosmobio.co.jp/>

● 営業部 (お問い合わせ)
TEL: (03) 5632-9610 FAX: (03) 5632-9619
TEL: (03) 5632-9620